

川口小学校 第1学年 算数科学習指導案

期 日 平成27年11月19日(木)

場 所 1年教室

児童数 男子8名 女子13名 計21名

授業者 佐々木 章子

1 単元名「ひきざん」(東京書籍1年 下)

2 単元について

(1) 児童について

1年生の児童は「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の単元で減法の意味や立式の仕方、繰り下がりのない減法計算を学習してきた。また、「10よりおおきいかず」の単元では、20までの数の唱え方、数え方、数の構成などについて学習してきた。そして、「15は10と5」などの学習は、どの児童も答えを求めることはできるが、ブロックを使わなければできない児童もあり、十分に定着しているとはいえない。また、個人差が大きく、支援員の支援をうけながら学習をすすめている児童もみられる。

【ステップ】での学び合いの活動は、ペアやグループでの考えの交流を行い、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いて自分の考えを深めたりする活動を行ってきた。それをもとに全体での発表を行い、学級での学び合い活動を行った。伝え合う活動は、算数科だけでなく、国語科、生活科、学級活動等でも行ってきた。

(2) 教材について

本単元で扱う11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法は、学習指導要領に「A数と計算—(2)加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」「D数量関係—(1)加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。」と位置付けられている。

本単元では、10までの数の合成・分解の学習(「いくつといくつ」)を生かし、半具体物を用いた活動などを通して11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできるようにすることをおもなねらいとしている。このとき、「十いくつ」を「10といくつ」ととらえることによって、筋道立てて計算の仕方を説明できるようにすることが大切になる。

(3) 指導にあたって

繰り下がるところが今までの学習と大きく異なるところである。 $13 - 9 = (10 + 3) - 9 = 10 - 9 + 3 = 4$ の計算方法を理解させる上で算数ブロックを操作させながら考えさせたい。10のまとまりから減数をひくことを理解できるように、ブロックの操作を言葉で説明できるようにさせたい。

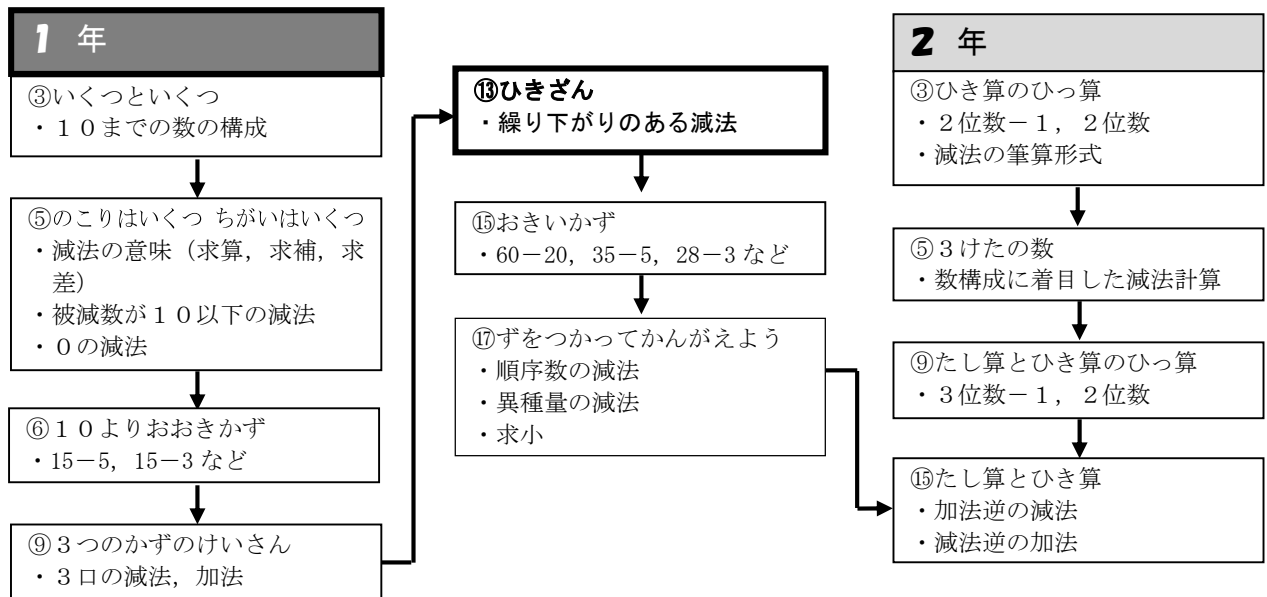
次に、 $12 - 3$ の計算では、減加法だけでなく、減々法によっても答えを求められることを理解させ、減数の除去のしかたに着目させた後、どちらの考えでも答えは同じになることを確認させたい。

また、習熟を図るために、カードによる計算練習にカード遊びを取り入れ楽しみながら習熟させていきたい。

本単元では、【伝え合い、学び合い】の場面で、ペア学習で互いの考えを伝え合って、自

分の考えと比較したり，新しい考えに気付いたり，理解できないことに気付いたりする活動を行わせる。それを全体発表につなげていきたい。

3 単元の発展と関連



4 単元の目標

○ 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し，確実にできるようにするとともに，それをを用いることができるようにする。

【関心・意欲・態度】既習の減法計算や数の構成をもとに，11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとしている。

【数学的な考え方】11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え，操作や言葉などを用いて表現したり，工夫したりすることができる。

【技能】11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。

【知識・理解】10のまとまりに着目することで，11～18から1位数をひく減法計算ができることを理解する。

5 指導計画（本時3 / 13）

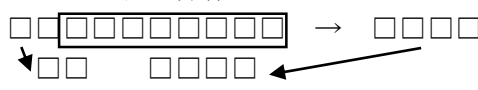
小単元	時	主な学習活動	評価規準
① 13-9の けいさん	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ P16の絵を提示し、減法の式を考え、未習の計算に関心を持つ。 ・ 場面を読み取り、立式する。 ・ 13-9の計算の仕方を考える。 	関) 既習の加減計算や数の構成を基に13-9などの計算の仕方を考えようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減加法による計算方法をまとめる。 ・ ブロックなどを用いて12-9の計算の仕方を考える。 	考) 13-9などの計算の仕方を考え操作や言葉などを用いて説明することができる。
	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減数が8の場合の計算の仕方を考える。 ・ ブロックなどを用いて11-8の計算の仕方を考える。 	知) 減数が8~5の場合でも10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減数が9, 8の場合の計算練習に取り組む。 	技) 減加法による計算が確実にできる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減数が7の場合の計算の仕方を考える。 ・ 計算練習に取り組む。 	
② 12-3の けいさん	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面を読み取り、立式する。 ・ 12-3の計算の仕方を考える。 ・ 減々法による計算方法についてまとめる。 	考) 被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりといくつに分けて計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算練習に取り組む。 ・ 文章題を解決する。 	知) 11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつにわけて考えればよいことを理解している。
③ かあどれん しゅう	8 ~ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。 	技) 11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。
まとめ	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しあげ」に取り組む。 ・ 「おいこしげえむ」に取り組む。 	知) 基本的な学習内容を身につけている。 関) 既習事項を適切に用いて、活動に取り組もうとしている。

6 本時の指導

(1) 目標と評価規準

目 標	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で被減数を分解して計算する方法の理解を確実にする。
評価規準	知) 減数が8の場合でも10のまとまりからひけばよいことを理解している。

(2) 展 開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点	姿
導 入 (7)	1 前時を想起する。 2 問題(課題)をつかむ。 14-8のけいさんのしかたをかんがえましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 13-9の計算の仕方を振り返らせる。 全員で声に出して読み、確認する。 前時と同じ繰り下がりのあるひき算であることを押さえさせる。 	
展 開 (28)	3 見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> 10のまとまりからひけばよい。 ブロックを使う。 計算図(さくらんぼ計算)を使う。 4 自力解決をする。 <ul style="list-style-type: none"> ブロック操作  <ul style="list-style-type: none"> 計算図(さくらんぼ計算) $\begin{array}{r} 14-8 \\ 10 \quad 4 \\ \hline \end{array}$	<p>【ホップ】 14を10と4にわけて、ブロック操作や計算図で解決しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10のまとまりを意識させるためにブロックケースを用意させる。 	ホップ
	5 ペア学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを隣同士で発表し合う。 6 全体発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ブロックを使つての考え方を説明する。 計算図を使つての考え方を説明する。 7 適用問題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 11-8の計算の仕方を言いましょう。 自分で言葉に出しながら、解く。 	<p>【ステップ】 話) 自分の考えを、ブロック操作や計算図や言葉で伝えている。 聞) 自分の考えと比べながら、相手の話を聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロックと計算図の共通点に着目させ、同じ考え方であることを確認する。 10のまとまりに着目させる。 全員で問題を解き、答えを確かめる。 	ステップ
終 末 (10)	8 学習のまとめをする。 10のまとまりから、ひくとよい。 9 練習問題に取り組む。 13-8 10 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> わかったことや頑張ったことなどを発表する。 11 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> できれば、計算図で解かせる。 <p>【ジャンプ】 10のまとまりからひけばよいことがわかったということを感じて発表している。</p>	ジャンプ